

近畿地方整備局 独立行政法人 水資源機構
資料配付

配布日時	平成26年6月11日 14時00分
------	----------------------

件名	土木学会賞の技術賞を受賞したのでお披露目します ～洪水による壊滅的被害を回避した 淀川水系7ダム等の連携操作～
----	---

概要	<p>平成25年台風18号洪水においては、日吉ダムをはじめ淀川水系7ダム等の連携による洪水調節操作により、桂川下流部の堤防の決壊という最悪の事態を回避することができました。</p> <p>土木学会からこの7ダム等の連携による洪水調節操作が全国的にもきわめて顕著なダムの効果を示すものと認められ、この度、土木学会賞の技術賞（Iグループ）を受賞いたしました。</p> <p>今回、近畿地方整備局長、(独)水資源機構関西支社長が同席し、報道の皆様へ受賞の盾、賞状の写真撮影等お披露目の場を、開催させていただきます。</p> <p>日時 平成26年6月16日(月) 9時30分～40分 場所 近畿地方整備局 局長室</p> <p>○受賞業績名 「平成25年台風18号における淀川水系の洪水調節（7ダム等の連携操作により壊滅的被害を回避）」</p> <p>○受賞機関 国土交通省近畿地方整備局及び管内2事務所 (独)水資源機構関西支社及び管内3管理所</p>
----	--

取扱い	—
-----	---

配布場所	近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、京都府政記者室、宇治日刊記者クラブ、宇治日刊地方記者クラブ、南丹市政記者クラブ、奈良県政・経済記者クラブ、奈良市市政クラブ、学研都市記者クラブ、名張市政記者クラブ、桜井市政記者クラブ、滋賀県報道機関
------	--

問合せ先	近畿地方整備局河川部 河川管理課長補佐 冠 雅之 電話 06-6942-1141 (代表)、06-6941-7343 (直通) 独立行政法人水資源機構 関西支社 事業部 施設管理課長 廣瀬 正一 電話 06-6763-5182 (代表)
------	--

平成25年台風18号における淀川水系の洪水調節 — 7ダム等の連携操作により壊滅的被害を回避—

土木学会賞 技術賞（Iグループ） 受賞

昨年9月、近畿地方に大きな被害をもたらした台風18号による洪水時に、日吉ダムをはじめ淀川水系7ダム等の連携による洪水調節操作（添付資料）により、桂川下流部の堤防の決壊という最悪の事態を回避することができました。この度、この操作が全国的にもきわめて顕著なダムの効果を示すものと認められ、土木学会賞の技術賞（Iグループ）を受賞いたしました。

【受賞機関】

国土交通省近畿地方整備局、淀川ダム統管理事務所、琵琶湖河川事務所
（独）水資源機構関西支社、日吉ダム管理所、木津川ダム総管理所、
琵琶湖開発総合管理所

近畿地方整備局長、（独）水資源機構関西支社長が同席し、報道の皆様へ受賞の盾、賞状の写真撮影等お披露目の場を、開催させていただきます。

日時 平成26年6月16日（月） 9時30分～40分

場所 近畿地方整備局 局長室

〒540-8586 大阪府中央区大手前1-5-44 大阪合同庁舎1号館8階

出席者 国土交通省 近畿地方整備局長 いけうち こうじ 池内 幸司

独立行政法人水資源機構 関西支社長 じかん しげはる 自閑 茂治

※お披露目の後、別室にて受賞に至った洪水調節等の説明を、させていただきます。

日時 平成26年6月16日（月） 9時50分～

場所 大阪合同庁舎1号館 新館3階 河川補助事業対応室

※取材、お披露目の場に来られるにあたっては、6月13日（金）18:00までに下記担当までご連絡のうえ、当日（6月16日（月））9時25分までに、大阪合同庁舎8階の東側エレベータホール付近（近畿地方整備局総務課前）までお越し願います。時間になりましたら担当者がご案内をさせていただきます。

連絡担当：近畿地方整備局河川部河川管理課 かんむり 冠 まさゆき 雅之 TEL06-6941-7343

※なお、土木学会賞の授与は、公益社団法人土木学会の定時総会と合わせて、以下のとおり行われる予定です。

日 時 平成 26 年 6 月 13 日(金) 14:40 から

場 所 ホテルメトロポリタンエドモント

東京都千代田区飯田橋 3-10-8

【土木学会賞について】（公益社団法人土木学会ホームページより）

土木学会賞は、学会創立後 6 年目の 1920（大正 9）年に「土木賞」として創設されました。以来、大戦終了後の 1945 年から 48 年までの余儀ない中断はあるものの、80 余年の伝統に基づく権威ある表彰制度です。

技術賞（I グループ）：具体的なプロジェクトに関連して、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる計画、設計、施工または維持管理等の画期的な個別技術。いわゆる「ハードウェア」のみならず、情報技術、マネジメント技術をはじめ、新しい制度の導入等の「ソフトウェア」についても対象とする。

平成 25 年度土木学会技術賞 授賞

平成 25 年台風 18 号における淀川水系の洪水調節 — 7 ダム等の連携操作により壊滅的被害を回避 —

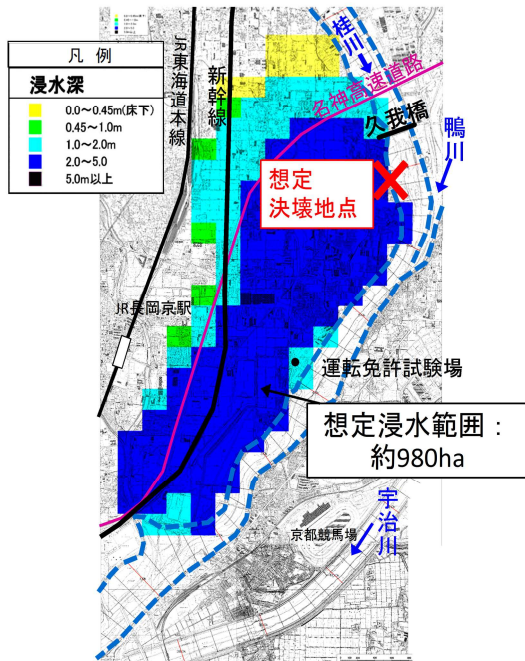
国土交通省近畿地方整備局・淀川ダム統合管理事務所・琵琶湖河川事務所
(独) 水資源機構関西支社・日吉ダム管理所・木津川ダム総合管理所・琵琶湖開発総合管理所



平成 25 年 9 月台風 18 号の豪雨により、淀川水系桂川下流部の鴨川合流点付近（京都市）の右岸堤防において、最大 400m の区間で越水しました。水防団・自衛隊による懸命な水防活動により土のう積みが行われ、桂川上流の日吉ダムでは、ダム容量を最大限活用して洪水を貯留する操作を行いました。宇治川においても、天ヶ瀬ダムの洪水調節と瀬田川洗堰の全閉操作を行い、さらに、木津川上流のダム群（布目ダム、高山ダム、室生ダム、青蓮寺ダム、比奈知ダム）も連携して桂川下流部の水位低下に努めました。これら、すべての施設を最大限に活用した洪水調節により、堤防の決壊という最悪の事態を回避することができました。



日吉ダムがなく、鴨川合流点付近において右岸側の堤防が決壊したと想定した場合の浸水状況



桂川下流部での堤防上の越水深が 10~20cm であったため、水防活動による土のう積みで堤防決壊を防ぐことができましたが、仮に 7 ダムがなく、瀬田川洗堰が全開であれば、越水深はさらに数十 cm 高くなると推定され、土のう積みも困難であったと考えられます。また、日吉ダムがなく、堤防が決壊したと仮定した計算では、約 13,000 世帯の浸水、約 1.2 兆円の被害が算定されます。

さらに、浸水被害を受けた嵐山付近においても、日吉ダムがない場合に比べ、水位を約 50cm 低下させ、浸水家屋を約 6 割低減させたと推定されます。

この洪水調節操作は、各ダム管理所、ダム統合管理事務所、近畿地方整備局、水資源機構関西支社が、緊密に連絡調整を行い、高度な技術力を発揮することによって、水系 7 ダム等の連携による前例のない操作を実施し、全国的にも極めて顕著なダムの効果を示したものであり、大災害を未然に防止した功績は大きいと高く評価され、技術賞に値するものとして認められました。